

高等学校芸術科（音楽）採点基準

2枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点								
1	1	※ 別紙 (計1枚)		10								
	(1)	※ 別紙 (計1枚)		各5×4								
	2	(2) ※ 別紙 (計1枚)	問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。	40								
2	<p>題材名 (ギターの音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫しよう。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>学習活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ギターの音色や奏法を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、ギターの音色や奏法に関心をもって教材曲「なごり雪」の演奏に取り組む。</li> <li>・教材曲「なごり雪」を歌ったり、聴いたりして、曲想、歌詞、音楽的な特徴について感じ取ったことや気付いたことを自由に話し合う。</li> <li>・資料や教師の説明によって、姿勢やギターの構え方、コードの構成音や表記、タブ譜、ダイヤグラムなどについて知る。</li> <li>・教材曲「なごり雪」で使用するコードを左手で押さえて弾き、コードを繰り返して練習する。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>第2時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ギターの音色や奏法に関心をもって、教材曲「なごり雪」の伴奏をする。</li> <li>・教材曲「なごり雪」で使用するコードを確認し、一定のテンポでコードが自然に押さえられるように練習する。</li> <li>・ストローク奏法について知り、段階的に右手や左手の使い方について確認し練習する。</li> <li>・範奏や視聴覚教材によって、実際の音色を聴いたりストローク奏法を見たりして、教材曲「なごり雪」にふさわしいストローク奏法について考え、感じ取ったことをどのように表現したらよいか、グループ及び個人で器楽表現を試行錯誤する。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>第3時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ギターの音色や奏法の特徴を生かして、表現を工夫して演奏する。</li> <li>・ギターで教材曲「なごり雪」の弾き語りをする。</li> <li>・前時までに学習したことを生かし、グループとして目指す表現を話し合い、実際に音を出しながらストローク奏法を工夫し練習する。</li> <li>・グループごとに弾き語りを行い、全体で聴き合う。</li> <li>・演奏を振り返り自己評価を行うとともに、他のグループの表現についてよいと思ったことを交流する。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		時間	学習活動	第1時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ギターの音色や奏法を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、ギターの音色や奏法に関心をもって教材曲「なごり雪」の演奏に取り組む。</li> <li>・教材曲「なごり雪」を歌ったり、聴いたりして、曲想、歌詞、音楽的な特徴について感じ取ったことや気付いたことを自由に話し合う。</li> <li>・資料や教師の説明によって、姿勢やギターの構え方、コードの構成音や表記、タブ譜、ダイヤグラムなどについて知る。</li> <li>・教材曲「なごり雪」で使用するコードを左手で押さえて弾き、コードを繰り返して練習する。</li> </ul>	第2時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ギターの音色や奏法に関心をもって、教材曲「なごり雪」の伴奏をする。</li> <li>・教材曲「なごり雪」で使用するコードを確認し、一定のテンポでコードが自然に押さえられるように練習する。</li> <li>・ストローク奏法について知り、段階的に右手や左手の使い方について確認し練習する。</li> <li>・範奏や視聴覚教材によって、実際の音色を聴いたりストローク奏法を見たりして、教材曲「なごり雪」にふさわしいストローク奏法について考え、感じ取ったことをどのように表現したらよいか、グループ及び個人で器楽表現を試行錯誤する。</li> </ul>	第3時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ギターの音色や奏法の特徴を生かして、表現を工夫して演奏する。</li> <li>・ギターで教材曲「なごり雪」の弾き語りをする。</li> <li>・前時までに学習したことを生かし、グループとして目指す表現を話し合い、実際に音を出しながらストローク奏法を工夫し練習する。</li> <li>・グループごとに弾き語りを行い、全体で聴き合う。</li> <li>・演奏を振り返り自己評価を行うとともに、他のグループの表現についてよいと思ったことを交流する。</li> </ul>	問いを正しくとらえていれば、表現は異なっていてよい。	30
時間	学習活動											
第1時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ギターの音色や奏法を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、ギターの音色や奏法に関心をもって教材曲「なごり雪」の演奏に取り組む。</li> <li>・教材曲「なごり雪」を歌ったり、聴いたりして、曲想、歌詞、音楽的な特徴について感じ取ったことや気付いたことを自由に話し合う。</li> <li>・資料や教師の説明によって、姿勢やギターの構え方、コードの構成音や表記、タブ譜、ダイヤグラムなどについて知る。</li> <li>・教材曲「なごり雪」で使用するコードを左手で押さえて弾き、コードを繰り返して練習する。</li> </ul>											
第2時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ギターの音色や奏法に関心をもって、教材曲「なごり雪」の伴奏をする。</li> <li>・教材曲「なごり雪」で使用するコードを確認し、一定のテンポでコードが自然に押さえられるように練習する。</li> <li>・ストローク奏法について知り、段階的に右手や左手の使い方について確認し練習する。</li> <li>・範奏や視聴覚教材によって、実際の音色を聴いたりストローク奏法を見たりして、教材曲「なごり雪」にふさわしいストローク奏法について考え、感じ取ったことをどのように表現したらよいか、グループ及び個人で器楽表現を試行錯誤する。</li> </ul>											
第3時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ギターの音色や奏法の特徴を生かして、表現を工夫して演奏する。</li> <li>・ギターで教材曲「なごり雪」の弾き語りをする。</li> <li>・前時までに学習したことを生かし、グループとして目指す表現を話し合い、実際に音を出しながらストローク奏法を工夫し練習する。</li> <li>・グループごとに弾き語りを行い、全体で聴き合う。</li> <li>・演奏を振り返り自己評価を行うとともに、他のグループの表現についてよいと思ったことを交流する。</li> </ul>											

高等学校芸術科（音楽）採点基準

2枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点
3	1	安宅		4
	2	(1) 歌舞伎舞台の下手の御簾の中で演奏される音楽。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 5 × 2
		(2) 母音を引き伸ばして歌う時のその音。		
	3	(a) サ		各 4 × 4
(b) エ				
(c) オ				
(d) コ				
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>音階の特徴に興味をもち、音のつながり方やフレーズのまとまり、音の重なり方によって生み出される表情の多様さなどに生徒自らが気付かせる学習活動。</li> <li>音階が醸し出す雰囲気や印象、特徴的な響きなどから、生徒がつくってみたい音楽のイメージに合う音階を選ぶ学習活動。</li> <li>即興的に音を出して、音階による雰囲気の違いを感じ取り、表現したい音楽のイメージを膨らませながら音の組合せを工夫する学習活動。</li> </ul>		1つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
5	1	(a) グレゴリオ聖歌		各 3 × 4
		(b) ガムラン		
		(c) 管絃	管絃 もよい。	
		(d) 多声		
2	姿勢や身体の使い方、呼吸法、共鳴の様子に着目させて地声の特徴に気付かせたり、民謡の模範演奏や自分の歌った録音を聴き、コブシの特徴に気付かせたりして、発声や歌い方の特徴を生かした表現を生徒自ら工夫できるようにする。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
6	1	(ア) 限られた和声の中で、パターン化された音型やリズム型を反復しつつ構成する音楽。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 4
		(イ) モンゴルなどの北アジアで歌われる、同時に二つの音を発する歌唱法。		
		(ウ) ギターの奏法名の一つで、弦をはじいた後、指が次の弦に触れず空中に浮く奏法。		
		(エ) 愛らしく。優しく。		
2	(ア)	楽 曲 名 歌曲集「冬の旅」から「菩提樹」	作 曲 者 名 シューベルト	各 3 × 4
	(イ)	楽 曲 名 ピアノソナタ第8番ハ短調「悲愴」	作 曲 者 名 ベートーヴェン	
7	イタリア歌曲やドイツ歌曲などと比較して聴き、「この道」で学習したことを基に、発音の違いによる特徴と表現上の効果との関わりを感じ取って鑑賞すること。		問いを正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10

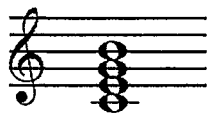
1

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

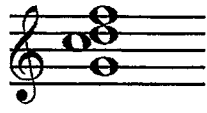
2

(1)

(ア)



(イ)



(ウ)



(エ)



(2)

(ソプラノ・リコーダー)

(アルト・リコーダー1)

(アルト・リコーダー2)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。